▲市長に受賞報告。写真左から岡部教育長、田口康也・副支部長、田中聖二・支部長、安田市長、松本英二・市子連会長

市子ども会五和支部が特別賞受賞！

2/15~17 五和

～全国子ども育成中央会議研究大会～

２月15日から同17日まで、福島県いわき市で開かれた「第41回全国子ども育成中央会議研究大会」で、市子ども会育成連絡協議会（市子連）五和支部が、子どもたちの育成功労団体として特別賞を受賞しました。同支部（旧五和町子ども会）は、昭和44年に発足。青少年育成事業として実施してきた南阿蘇村（旧久木野村）の子ども会との夏・冬の交流キャンプや同支部の単独キャンプ、31年間続けられた球技大会などの取り組みが高く評価されました。

▲山並さんの腕前に見入る参加者

地元の食材でおもてなし料理を！

3/16 御所浦

～料理研究講習会～

３月16日、福岡市内のホテル総料理長・山並辰巳さん（倉岳町出身）による料理研究講習会が、御所浦交流センターで開かれました。これは、御所浦町の主婦・鵜飼実紀（うかいみき）さんが「家庭でもおもてなしの料理を」と、東京の芸術団体と協力して企画。参加者約30人は山並さんの手ほどきを受けながら、地元の食材を使った“真鯛のムニエル”や“甘夏のクレープ”など６品の料理に挑戦。試食しながら「見て良し、食べて納得。家でもぜひ作りたい」と話していました。

▲ベンチの組立作業に取り組む役員の皆さん

ベンチ25台を組み立て、市に寄贈

3/21 栖本

～市老人クラブ連合会栖本支部～

３月21日、市老人クラブ連合会栖本支部が、栖本総合グラウンドでベンチ25台の組立作業を行い、完成後、市に寄贈されました。これは、同支部が栖本温泉センターの管理委託などで得た収益の一部を、地域に還元しようと行われたものです。作業に参加した役員13人はドライバーなどを使って、一つひとつていねいに組み立てていました。吉田親（ちかし）・同支部会長は、「市民の憩いの場となるよう、グラウンドなどで活用してほしい」と話されていました。

▲シイタケのコマ打ちを体験する参加者

自然豊かな天草での生活を満喫！

3/26~30 新和

～天草しんわ自然学校～

３月26日から同30日まで、「天草しんわ自然学校」が新和みどりの村で開かれました。これは、同学校実行委員会が毎年、春と夏の２回開催しているものです。今回は、熊本市などから小学生18人が参加。地元の農家や高校生の手ほどきを受けて、釜を使った炊飯や魚釣り、シイタケのコマ打ちを体験したほか、泥まみれになりながら棚田での早期米の田植えに挑戦。また、海や山で食料を調達し自炊するなど、自然豊かな天草での生活を満喫していました。

▲「大江のたからものは教会」と話す久保山くん

久保山望くんの「大江のたからもの」が優秀賞に！

3/27 天草

～「絵で伝えよう！わたしの町のたからもの」絵画展～

㈳日本ユネスコ協会連盟などが主催する絵画展で、大江小学校３年の久保山望（くぼやまのぞむ）くんの作品『大江のたからもの』が、大賞（１点）に次ぐ優秀賞（５点）に選ばれ、３月27日に表彰されました。これは、全国の小・中学生が応募した３万1,439点の中から選ばれたもので、「澄んだ青空に、大江天主堂がダイナミックなタッチで描かれた作品」と高く評価されました。久保山くんは「選ばれてうれしい。教会がずっと残ってほしいと思って描いた」と話していました。

▲天草桜まつりの呼び物“とおしもん”

飾り人形で「五足の靴」などを再現

3/31~4/20 本渡

～伝統民芸“とおしもん”～

天草桜まつりの呼び物“とおしもん”が３月31日から４月20日まで、スマイルパーク（中央新町）に展示されました。とおしもんは、木やワラ、紙などを材料に作った等身大の飾り人形です。今年の出し物は、本渡中学校の伝統工芸部員と本渡北小学校の児童の計15人が、伝統民芸とおしもん保存研究会の指導を受けて制作した「五足の靴」と「染岳観音様と石」の２点。道行く人々は足を止め、すばらしい出来栄えに見入っていました。

▲牛深ハイヤの歴史を熱心に語る吉川さん

ハイヤの歴史を知ろう！

4/5 牛深

～牛深ハイヤ学習会～

４月５日、牛深地区振興会が牛深ハイヤの歴史を知る学習会を牛深総合センターで開催し、地域住民など約50人が参加しました。学習会では、観光ボランティアガイドの吉川茂文さんによる講演のほか、牛深ハイヤと阿波踊りの関係をひもといたビデオを上映。ビデオの映像には、ハイヤ節が全国各地へ伝わった経緯や200年以上前に牛深・本渡・徳島の交流があったことがわかる文書が映し出されるなど、参加者は熱心に見入っていました。